

平成 24 年度日本財団助成事業
松枯れ林地再生プロジェクト「水源の森づくりと 200 年の森づくりデザイン」
第 10 回 桐生・新宿 森と水による交流



- 1 趣 旨 里山ボランティア（森づくり）の体験を通して「水を守るために山林を守る」ということの大切さを学び、環境問題への関心を高めるとともに、利根川上下流域住民の交流と地域づくりを目的とする。
- 2 開催日時 平成 24 年 5 月 19 日（土） 午前 10 時 00 分～午後 3 時 30 分
- 3 場 所 桐生市梅田町地内「柄杓山(城山)」市有林～梅田清流広場～梅田ふるさとセンター
集合場所：柄杓山(城山)駐車場
- 4 内 容 里山ボランティア「下草刈り」、利根川上下流域住民の交流会、カブトムシ幼虫探査、竹とんぼづくり、間伐板材お絵かき、チエンソー・動力刈り払い機体験、桐生川で森と水のお話、梅田ふるさとセンター訪問
- 5 参加者 桐生市内を中心に県内の児童・生徒及び保護者、その他市民団体・企業等 76 名、武蔵野大学を中心とした利根川下流域の住民 36 名、上毛新聞 1 名、桐生タイムス 1 名、光ケーブルネット 1 名
桐生市役所関係 17 名 以上 132 名
- 6 主催 桐生市、NPO 法人赤城自然塾
- 7 後援 桐生市教育委員会
- 8 協力 桐生広域森林組合、桐生の清流と森林を守る会、きりゅう市民活動推進ネットワーク、NPO 法人 新宿環境活動ネット、リボン＜エコツーリズム・ネットワーク＞

時 系 列 別 実 施 報 告

平成 24 年 5 月 19 日（土） 晴天、気温 26

- 6：00 昼食用焼き豚の仕込み
- 7：00 テント張り、椅子・テーブル設置、



7 : 3 0 昼食用 うどん・焼き豚サンド・てんぷら・キュウリ漬物・フルーツ 等準備開始 (梅田公民館調理室)



8 : 3 0 下刈り地 会場準備と案内看板設置

9 : 0 0 竹とんぼづくり準備、カブトムシの幼虫探査の準備、下刈り用カマ、軍手、受付 の準備

間伐板材お絵かき、チエンソー・刈り払い機体験準備、(カブトムシ幼虫提供協力：ぐんま昆虫の森)

9 : 3 0 係の役割配置、受付開始

9 : 5 0 新宿よりの参加者 BDF バスで到着 梅田公民館からマイクロバスで3回分乗輸送し、森づくり会場へ



1 0 : 4 0 桐生市副市長 八木 計二 氏 挨拶、日程説明 (桐生市民生活課) 集合写真撮影

下草刈り・植林 (補植) 作業について桐生広域森林組合により説明と実践指導

地元参加者に新宿の参加者が合流し、下刈り、開始





11:50 下草刈り活動終了

12:00 梅田清流広場へ移動

12:10 梅田清流広場で昼食を交えた交流、主催者挨拶：赤城自然塾小林事務局長、桐生市市民生活課大貫課長、受け入れ側代表挨拶：桐生の清流と森林を守る会小堀代表、きりゅう市民活動推進ネットワーク近藤代表、新宿側代表挨拶：リポーン<エコツーリズム・ネットワーク>壺岐代表
うどん、てんぷら、焼き豚サンド、キュウリ漬物、グレープフルーツ、に舌づつみ、そして交流
竹とんぼ、カブトムシ幼虫探査と確保、間伐板材お絵かき、桐生川で森と水のお話、チエンソー・動力刈り払い機体験





14:50 クロージングコメント：桐生市市民生活部長 飯塚 芳英 氏

15:10 梅田ふるさとセンター訪問、帰り土産等購入



15:35 事業終了お別れ 新宿へ出発

晴天に恵まれ、若葉、青葉の輝く梅田の地で多くの参加者を得て無事、計画通り実施する事ができました。東京からの参加者は今回、武蔵野大学学生が中心で、若者による活気が梅田の里に満ち溢れた感がありました。地元の子供達も多数参加頂き、用意したプログラムにエキサイトしておりました。

柄杓山の森づくり現場では桐生広域森林組合の指導の下、下草刈り、ツル取りをして若木の成長を助ける活動に汗を流しました。

途中、落下していた雄シカの角をゲットした子どもが4人おり、思いがけない収穫に喜んでおりました。

また、希少植物のエビネも花をつけている状態を発見でき、参加者に紹介することができました。

梅田清流広場では昼食を共にした交流・カブトムシ幼虫探査・間伐材お絵かき・桐生川で小堀さんによる森と水のお話等を実施、梅田ふるさとセンターでは山菜等のお土産購入。 一路新宿へ。

参加者の声として、「水源の森の大切さも理解でき、楽しかったので、是非次回も参加したい」との申し出を多くの方々から頂きました。

また、武蔵野大学参加者 Y.M.さんから以下のコメントも届いております。

こんばんは！

先日のエコツアーで最後に握手をして写真を撮らせて頂いた Y.M.です。

先日は、桐生市で色々な経験をさせて頂き有難うございました！

カマを使ったり、竹とんぼを作ったり、チェーンソーを体験したり、初めてづくしの1日でしたが、本当に素敵な体験が出来て良かったです！

そして何より、桐生川の綺麗さに感動しました。

また来年も参加出来ることを楽しみにしています！

ありがとうございました。

下草刈りや昆虫探し

東京の大学生と住民交流 桐生
 下流域の住民と水源 自然塾、桐生市主催の森づくりを協働で進め、第10回桐生・新山と梅田清流広場で行われた。東京・新宿区NPO法人赤城流（NPO法人赤城流）が主催した武蔵野大の学生と市内の親子連れら約80人が交流した。参加者は市有林の斜面を上り、6年前の交流事業で植えたケヤキやコナラの下草を鎌で刈った後、梅田清流広場に移動。竹とんぼ作りやカブトムシの幼虫探査をしたほか、間伐

板材に絵を描いた。武蔵野大は環境学部の子どもが多かった。



市有林で下草刈りをする参加者

桐生タイムス 2012年(平成24年)5月21日 月曜日

東京の大学生らと交流

力あわせ水源の森づくり

第10回桐生・新宿森と水による交流（桐生市、NPO法人赤城自然塾主催）が19日、桐生市梅田町一丁目の栢杓山市有林や同四丁目の梅田清流広場で開かれた。晴天のもと、桐生の家族連れと東京の大学生と合わせて80人ほどが、植樹した広葉樹の下草刈りを体験した。

同交流は水源の森づくりを上流域である桐生の住民と下流域である新宿の人たちが共同で行い、相互理解を深めようと実施している。今年、新宿



側からは武蔵野大学環境学部の学生35人が参加し、あいさつでスタート。子供

どもら参加者は桐生広域森林組合職員の指導で、鎌を片手に、植樹したケヤキやコナラのまわりに

今年も、同イベントの「お土産」であるシカの角が複数見つかり、子どもたちは大喜び。大学生たちもこれには興味津々で「ちょっと、触らせてもらっていいですか」などと話しかけていた。また、清流広場では昼食や交流会などが行われた。

下草刈りに汗を流す参加者たち（梅田町一丁目）